

大人の楽しい健康部

# ELIXIR CLUB



## 【ZODIAC】 2月プログラム PISCES

# 【MAGNUM OPUS】

～マグナム・オプス～

「我が行いは、賢者の石を作る法にあらず。

生み出さんと欲するものは“植物性の黄金”

であり、“純金薬液”なり」

マグナム・オプス。

それは、偉大なる

「真の錬金術」

を指した、別の呼び名であり…

その法を追求する者が目指すのは、

「黄金を生み出す知恵」

にあらず。

### 「若さの泉」

を体内から生み出し、  
生命を無限に生み出し、  
長生きをする薬であり…

不死の扉を開くカギであり、  
精神の高みへ至る道を示す

### 「純金薬液」

を生み出す業（わざ）である、と…

ヨーロッパの錬金都市を旅して  
その叡智を手に入れんとした  
1500年代後半の錬金術師、

### 「キャサリン・メルクリウス」

は、その旅の手記をまとめた  
未完にして幻の文献、

### 「アリアドネーの導き」

の中で、こう語っています。

“メルクリウス”というのは  
ローマ神話の神の名であり、  
錬金術では“水銀”を意味します。

その為、彼女の名前は本名ではなく  
ペンネームだと推測されますが…

その書の内容から読み取れる  
豊かな知識を見る限りでは、

「錬金術のみならず、占星術、  
哲学、医学などにかなり精通した、  
頭の切れる高貴な人物であった」

と推測されています。

この

「アリアドネーの導き」

という文献は、志を同じくして  
錬金術を共に学んだ、  
キャサリンの親しい友人や  
弟子と呼ばれるごく少数の人々が、

「手書きで書き写した資料」

が残されているだけで、  
原本は紛失しております。

しかも、“ある理由”によって  
その書は第三章までしか  
完成していないのです。

その為、かつて彼女が持っていた  
全ての知識を手に入れることは

不可能ではありますが…

彼女が語る

### 「植物の黄金、純金薬液」

つまり、

「ハーブの配合を記した章」

に関しては、イギリスの  
モスデールという土地で  
隠居生活をしている、

「とあるハーブ研究家」

の手元に残されていた為、  
ハーブ配合の内容は現在も  
受け継がれていたのです。

今回のハーブの配合の中には、  
“薬草の治療家たち”が  
現在も多用しているものが  
含まれており…

「キャサリン・メルクリウス」

を名乗る人物が、果たして  
誰だったのかは、今では  
知る由もありませんが、

その知識があらゆる形で

受け継がれ、現代まで  
語り継がれてきたのは、  
人々にとって非常に幸いでした。

この

### 「アリアドネーの導き」

は、錬金術や薬草学に留まらず、  
約 300 ページに渡って

「スピリチュアル」

「占星術」

「哲学」

「医学」

を交えながら、あらゆる視点から  
キャサリンが繰り返し、

「薬草を使った、生命の錬金術」

について語っています。

ただ、その理論の多くは  
専門の知識を持ってなお  
翻訳が難しい部分もある為、

今回は最も大切な考え方や  
認識を深める部分と、  
その本質の部分である

「12 種類の薬草」

の説明と活用法をまとめました。

何百種類、何千種類もある  
ハーブを全て知る必要はありません。

数は少なくとも、そのハーブの  
性質を知り、ハーブの個性を

「体感して、理解すること」

が大事なのです。

それでは、本題に入る前に  
まずは幻の未完の書、

「アリアドネーの導き」

が書かれた当時の時代背景について、  
簡単にお話しておきましょう。



## 1、真の錬金術の目的

一般的に錬金術と聞けば、  
現代人の多くが想像するのは

「無から黄金を生み出す」

「賢者の石を生み出す」

「怪しげな魔術を使う」

というイメージでしょう。

実際、錬金術が世界中で最も  
盛んに行われた中世の時代でも、  
彼ら錬金術師を名乗る者達は

目に見える物と見えない物を理解し、  
上と下、物質と精神を深く理解し、  
七つの惑星と七つの金属を活用し、

「黄金を生み出す人々」

「無から有を生む人々」

「非金属から貴金属を生む人々」

と言われていました。

現代より錬金術に対する人々の  
理解が深かったとはいえ、  
やはり錬金術師のすることは

「金を生み出す探求の法」



と認識されていたのです。

確かに、実際に錬金術に  
取り組んだ人達のほとんどは、  
無から金を生み出そうと日々、  
怪しげな実験を繰り返していました。

その事実は、歴史上のあらゆる  
文献からも明らかです。

しかし、金を生み出すという行為は  
あくまでも表面的なものであって、

ごく少数派の錬金術師たちが  
真に求めていた領域は、実は

**「生命を生み出すことにあった」**

…と。

キャサリン・メルクリウスは、  
文献の中で繰り返し説いています。

錬金術師の始祖と言われる

「ヘルメス・トリスメギストス」

という人物が、錬金術を通じて  
求めた結果は、3つ。

**「全知」（全てを知る事）**

**「全能」（全てを行えること）**

## 「永遠の肉体」

とされています。

未完の文献、

## 「アリアドネーの導き」

によれば…

キャサリン・メルクリウスは  
その3つを極めんとして、  
当時有名だったヨーロッパ中の  
錬金術師を片っ端から訪ね歩き…

弟子入りしてはその知識を学び、  
実践しては記録を書き足しながら、

ロンドン、パリを経由して  
フランクフルトに入り、当時

## 「錬金術都市」

と呼ばれ、数多くの錬金術師や  
占星術師、魔術師や各方面の  
知識人達が集結していた

「プラハ」

を目指そうとしたのです。

しかし、残念なことに…

彼女は、錬金術都市プラハに  
辿り着くことはできませんでした。

彼女は、フランクフルトにて  
命を落とし、帰らぬ人と  
なってしまったのです。



…と、こんな感じで  
82 ページまで続きます。

このハーブをテーマに、  
2年生、3年生コースは  
月に1回、2～3時間程度の  
グループコンサルを開催します。